

知の泉

Castalia

第 23 号
2016.09

東京外国語大学附属図書館報

---Contents---

02 館長巻頭言

03 自宅でDB を使おう

05 まとめて探しやすい空間になった！

-1F 閲覧室 & 書庫2層 新配架図-

06 ドイツの学術図書館における学習空間に関する実態調査

07 平成27年度附属図書館公開講演会報告

09 平成27年度附属図書館特別展示会報告

10 図書館統計

12 図書館活動日誌・編集後記

館長巻頭言

附属図書館長 小林 幸江

私は、この四月に図書館長に就任しました。私自身、本学の卒業生で、大学の図書館（以下、図書館）の思い出は尽きません。特に、旧西ヶ原キャンパスの図書館で過ごした時間は、私にとって学生時代そのものでした。縁あって、今年図書館長として図書館業務に関わることになりました。いつも身近にある図書館ですが、その中に入って改めて図書館を見てみると、今まで見えなかった図書館の姿が見えてきます。今回は、進化する図書館員（ここではライブラリアンと呼ぶことにします）について述べたいと思います。

ライブラリアンは独特の世界に生きているということをよく耳にします。それは、言うまでもなく図書館の独立性とそれを支えるライブラリアンの専門性にあると言えます。図書館は、大学の教育・研究に必要な知識・情報・データを収集・蓄積・提供する組織として重要な役割を果たしています。しかし、その役割は、時代とともに、また情報通信技術の発達にともない大きく変化しています。そのような状況下、ライブラリアンはより広くより高度な専門性が求められています。例えば、学術情報の電子化が進む中、オープンデータの推進、オープンアクセスの環境整備は重要な課題となっています。また、反転授業、アクティブラーニング等教育の変革が進む中、情報リテラシー教育及び学生の自発的な学習支援のため、教育との連携が求められています。さらに、研究面においてもグローバル化が進む中、大学の研究力を高め発信していくための支援も期待されています。

このような図書館が遭遇している課題を共有し協議する場として、国立大学図書館協会（以下、協会）があります。仙台で開催された 2016 年度の総会では、図書館の機能強化と革新に向け「国立大学図書館協会ビジョン 2020」が出され、大学図書館の基本理念とそれに基づく、取り組むべき三つの重点領域、「知の共有」（蔵書を超えた知識や情報の共有）、「知の創出」（新たな知を紡ぐ場の提供）、「新しい人材」（知の共有・創出のための人材の構築）が示されました（総会研究集会 2016）。その核となるのは、人材にあると言えます。これには、これからの学術情報システムの構築に必要な新しい人材だけでなく、既存の人材の資質向上を図ることにより育成される人材も含まれます。

人材育成に向けて、協会を中心にさまざまな取り組みがされています。本学のライブラリアンも専門研修や自主的な勉強会に参加し新しい知見を得つつ、その専門性を高めています。現場での OJT 以外にも他大学の図書館との交流を通し日常的に相互の学び合いを実践しています。また、協会の海外派遣事業では、若手ライブラリアンを海外の大学図書館等に派遣していますが、現地での調査・研修は彼らのインセンティブを高めています。その成果は発表を通し他の人たちにも共有されています。ライブラリアンに求められる専門性が多様化する中で、人材育成の仕組みや体制作りが大きな課題となっています。

図書館の今を考え、そして、将来を見据え、ライブラリアンは弛まぬ研鑽と地道な努力を続け進化をしています。本学の機能的で快適な図書館は、このようなライブラリアンによって支えられています。



自宅で DB を使おう

学術認証フェデレーションのサービスのお知らせ

学術認証フェデレーションのサービスとは

学術認証フェデレーション（以降、学認）とは、大学と、学術的な電子リソースを提供する機関・出版社等で構成された連合体で、相互に認証連携を行うものです。本学では 2015 年 4 月にサービスを開始しました。

※参照 : <https://www.gakunin.jp/fed/>

学認に参加している各出版社の【オンラインジャーナル、データベース、eBook】（以降、DB）には、大学用のログイン画面が用意されます。ここに、総合情報コラボレーションセンター（ICC）が発行している ICC アカウントを入力することで、その DB に学外からでもアクセスできるようになります。

学認で、DB に学外からアクセスしてみましょう

まずは図書館へ

- ① 図書館 2F カウンターで学認サービスの利用申請（平日 9 : 00-17 : 00）

※ 申請から利用開始まで 5 日から 10 日程かかります

- ② 学認に参加している契約 DB にアクセスし、ログイン画面に、ICC アカウントとパスワード(青パス)を入力

何が使えるの？

以下の 15 タイトルです（2016 年 9 月現在、本学の契約 DB は 35 タイトル）。

《日本語の論文を探す》

1. CiNii (論文情報ナビゲータ)
2. NII-REO (電子ジャーナルリポジトリ)

《英語の論文を探す》

3. LLBA (言語学)
4. MLA (言語学)
5. Cambridge Journals Online (人文社会科学)
6. ProQuest (人文社会学)
7. SpringerLink(人文社会科学)
8. Science Direct (自然／社会科学)

《電子ブック（英語）》

9. Cambridge Books Online
10. ebrary
11. Gale Virtual Reference Library : GVRL
12. Net Library : EBSCOhost
13. Wiley Online Library

《その他》

14. House of Commons Parliamentary Papers (英国下院議会文書データベース)
15. JapanKnowledge Lib (辞書・辞典類)

★本学の契約 DB リスト : <http://www.tufs.ac.jp/library/guide/list/online.html>

☞ どうやってアクセスするの？

画面1のように、各DBのログイン画面からアクセスしてください。DBごとに画面が異なりますので、どこからログインするのかわからない場合は、図書館HPの案内ページをご覧ください。

画面1 : CiNii (学認のログイン画面まで)

☆ 学認の案内ページ : http://www.tufs.ac.jp/library/guide/list/online_gakunin.html

学認とVPN、どちらを使う？

学認の他に学外からDBを使う方法として、VPN (Virtual Private Network) があります (2012年4月サービス開始)。VPNは専用のソフトをインストールしてから、ICCアカウント (赤パスワード) で、自宅など学外のパソコンを学内ネットワークに繋げることができます。

学認とVPN、研究方法に合ったサービスをご利用ください。

☆ VPNの案内ページ : http://www.tufs.ac.jp/library/guide/list/online_vpn.html

学認は、
いろいろな
端末を使う人
におすすめ

種類	利用できるDB	対応OS	特徴
学認	学認に参加している 契約DBのみ (約半数)	PC、タブレットなど、 WebブラウザがあればOK	インターネットに接続し ていれば、すぐ使える ※事前に図書館に 申請が必要
VPN	契約DBのほぼ全て ※官報情報検索サービス・ 三省堂 Dual Dictionary は、図書館内のみ	Windows 7・Vista Mac OS 10.5・10.6・X 10.7、 iOS (iPhone/iPad/iPod touch)	専用ソフトの インストールが必要

☆ お問い合わせ : 附属図書館 サービス係 (tosho-service@tufs.ac.jp)

VPNは、
様々なDBを
じっくり使いたい
人におすすめ



まとめて 探しやすい空間になった！

1F 閲覧室 & 書庫 2 層 新配架図

2015 年に、1 階閲覧室と書庫 2 層の配置変更を行いました。
新しくなったエリアをご紹介します。

書庫 2 層 雑誌コーナー

1F 閲覧室と書庫 2 層に分かれていた雑誌が、すべて書庫 2 層で閲覧できるようになりました。

1F 雑誌バックナンバー/書庫のフロア

書庫 2 層



エントランス

1F 閲覧室史資料ハブコーナー

C-DATS Collections

1F 閲覧室 AA 研蔵書コーナー

TLCAA Collections

1 F 閲覧室

変更前

書庫 2 層



1 F 閲覧室 AA 研・HUB コーナー

書庫 2 層の両端に置かれていた、AA 研（アジア・アフリカ言語文化研究所の蔵書）と HUB（史資料ハブ地域文化研究拠点収集の史資料コレクション）が 1 F 閲覧室にまとめ、アジア・アフリカ地域に関する資料をまとめて閲覧できるようになりました。

AA 研コーナーには約 7 万冊の言語学・人類学・歴史学・地域研究の資料が、HUB コーナーには約 80 言語、約 4 万冊の地域研究の資料が配置されています。

遡及登録ニュース

- ★書庫 1 層旧分類コーナー：旧分類コレクション（1962 年 4 月以前受入の図書館蔵書）全てにバーコードを貼り、貸出証の記入なしで図書が借りられるようになりました
- ★雑誌登録作業：雑誌 1 冊ごとにバーコードを貼り、OPAC で詳細を確認できるように登録する作業を進めています。[登録状況] 2014 年度・洋雑誌登録完了／2016 年度・日本語雑誌・大学紀要、朝鮮語雑誌、中国語雑誌を登録作業中。



調査スケジュール

- * フンボルト大学図書館 11月16日
- * ザクセン州立 & ドレスデン大学図書館
11月17日
- * チューリングゲン州立 & 大学図書館
11月18日
- * ライプチヒ大学図書館 11月19日
- * ベルリン州立図書館
(ウンターリンデン館・ポツダム館)
11月20日・11月21日
- * ベルリン自由大学図書館 11月21日

ドイツの学術図書館における 学習空間に関する実態調査

平成27年度国立大学図書館協会海外派遣事業参加報告

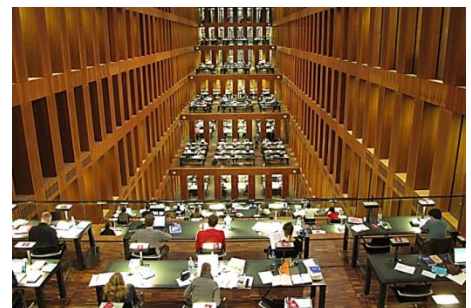
調査期間：平成27年11月16日～21日

附属図書館 石山夕記

皆さんは普段どんな所で勉強や調査・研究をすることが多いでしょうか。私が予備調査として行ったドイツ人留学生へのインタビューでは「プールサイドがお気に入りの勉強場所」という回答がありました。多様化する学習ニーズやアクティブラーニング型の授業の導入などに対応するため、近年、日本の多くの大学図書館では、ラーニングコモンズを設置してきました。当館では「@ラボ」と呼ばれ、授業期や試験期には多くの学生がグループワークや学習相談などのために利用しています。

今回調査を行ったドイツの学術図書館からは、このような傾向とは異なる特徴をもつ学習空間を見ることができました。フンボルト大学図書館（写真①）では、劇場のように閲覧席を階段状に配置することで、他の利用者と空間を共有しつつも、自分の作業に集中することができる、新しい形の学習空間を提供しています。ベルリン自由大学図書館（写真②）でも、同様に階段状の吹き抜け構造が利用され、誰もいない「個別学習」でも大人数で議論しながらの「集団学習」でもない、空間の共有を重視した閲覧席の配置がされていました。特に夜になると館内全体の照明が抑えられる代わりに、天井のパネルが開くようになっていて、時々夜空を見上げながら、手元のみを照らす照明を使って静かに集中して勉強する学生の姿が多く見られました。どちらの図書館も空席を見つけるのが難しいほどよく利用されていました。

どうしたらこのような誰もがここで勉強したいと思うような空間を作り出すことができるのか、調査中、常に考え続けていました。やがてインタビューを重ねるうちに、もしかしたらそんなに難しいことではないのかもしれないと感じ始めました。それはどこの図書館においても職員が非常によく1人1人の利用者の行動を観察していると感じたからです。例えば席があるのに学生が床や階段に座りこんで勉強していれば、「ここに座らないでください」と貼り紙をするのではなく、敢えて窓際の席を階段状にすることで、学生から好評を博した、といった具合です。利用者アンケートのような大規模な調査も必要ですが、何よりもまず利用者の何気ない行動にひっかかりを感じるセンスと、そこからヒントや発想を得てサービスを展開していく能力が、より重要なのではないかと感じ、今後本学らしい学習空間の在り方を模索する上で、非常に有意義な調査となりました。なお、詳細な報告は雑誌『大学図書館研究』に掲載を予定しています。



写真①
フンボルト大学図書館パンフレットより



写真②
ベルリン自由大学文庫学図書館 HP より

平成 27 年度 附属図書館公開講演会報告

【講演会概要】

附属図書館では、社会貢献のひとつとして公開講演会を毎年開催しています。平成 27 年度は、本学出版会から刊行された『演劇の未来形』が第 20 回 AICT 演劇評論賞を受賞したことを記念して、著者である谷川道子本学名誉教授による講演「演劇という文化」が、12 月 2 日（水）16 時 30 分からアゴラ・グローバル プロメテウス・ホールで行われました。

谷川先生のご研究の集大成ともいえるべき熱気にあふれた講演会となりました。

講演要旨

「演劇という文化」

東京外国語大学名誉教授 谷川道子氏



核にあるのは、演劇とは何なのだろう？という私自身の問いかけです。演劇というのは、きわめてパーソナルでかつパブリックな芸術ジャンルで、個人史と時代史の交点に成立するものです。話しの柱は、「20 歳でのドイツ演劇との出会い」「40 歳での東京外大での「語劇」との出会い」「ドイツ演劇の現在」の 3 つになります。

私は日本近代文学をやりたいと大学に入学したのですが、時代はベトナム反戦や大学紛争、70 年安保と、まさに政治の季節でした。もっと世界を知らなくてはと進学先をドイツ文学科に変更し出会ったのが、ドイツ演劇及びブレヒト(1898～1956 年)でした。20 世紀という激動の時代に演劇というメディアの可能性を探りつつ生きたのがブレヒトです。

ドイツあるいはヨーロッパにおいては、市民社会に演劇が占める位置が非常に大きく、どの町にもいくつもの劇場があり、その中心は国公立の公共劇場です。しかも劇場＝劇団で、劇場監督、演出家、スタッフ、俳優は任期契約制の公務員で、どの劇場も老若男女が満員で観劇を楽しんでいます。ドイツは 16 の州からなる連邦共和国で、教育・学術・文化の領域に関する権限は国家ではなく州が持つ、州の文化高権という文化連邦主義です。10 万人以上の大都市の 80%以上が劇場を持つ演劇都市であり、美術館や図書館も潤沢ですが、「演劇王国ドイツ」と言われるように教育・教養・文化の中心は演劇です。

日本とは、明治以降ドイツ演劇が翻訳紹介され、多くの演劇人がドイツに留学しリアルタイムでの交流が始まりました。近年は演劇オリンピック(1995 年開始)で世界的な交流が行われています。私は 1960 年代から半世紀にわたってドイツ演劇の研究・紹介・翻訳活動・実践現場との協働に携わってきましたが、ドイツ演劇が日本や世界の演劇とシンクロ・連動していく時代とも重なったのは幸運でした。

東京外大の「語劇」には 1987 年から教師として関わりました。「語劇」とは、秋の外語祭（大学祭）で専攻言語毎に学生が上演する外国語劇です。本学の前身である東京外国語学校時代の 1900 年に「講演会」として始まり、百年以上が経過した現在でも外語祭の中心行事として毎年上演されています。学生は、学部 1 年時に文法・発音と地域基礎・文化史を学び、2 年時に演目を選んで稽古して上演することで、演劇＝身体性を通して生きた言葉と文化を身につけます。まさに本学独自の言語・文化習得の教育メソッドです。2004 年には文部科学省の特色ある教育実践プログラム GP（Good Praxis）に採択され、上演環境の整備や語劇支援室の設置、アーカイブ作成など、ハード・ソフトの両面を充実させました。

「ドイツ演劇の現在」としては、若い研究者 6 名と組んで作成した報告書『ベルリン演劇祭（デア・タートレフエン）TT2015 とドイツ語圏演劇の現在：演劇の可能性を拓く（谷川チーム報告）』をご紹介します。本日は冊子で配布していますが、シアターアーツの Web サイトで閲覧できます。（URL：<http://theatrearts.aict-iact.jp/201511/3494/>）

ベルリン演劇祭は、各年度のドイツ語圏の劇場のベスト 10 の舞台を選んで 5 月にベルリンに招聘し上演する、映画でいうオスカー賞のようなものです。TT2015 では緊急の難民問題を扱ったノーベル賞作家イエリネク作の『庇護にゆだねられた者たち』やユーゴスラビア内戦をテーマとしたものなど 10 作品が上演されました。（編集注：詳細は報告書を参照）全体としては、世代が若返っているような意味で政治的姿勢が目立つと言われています。ドイツ演劇の可能性を様々な方向へ拓こうという強い思いと意思が感じられるものの、ここからどこに向かうのかはいまひとつ見えない過渡期の感が残りました。

最後に、演劇とは何でしょうか？「演劇とは時代を映す鏡だ」と言ったのはシェイクスピアですが、ともに学び考え楽しむ場であり、今や自分たちの焦眉の未解決の問題をともに考える広場のようです。演劇が本来持っている公共性が、「公共劇場」という制度を支えているのではないのでしょうか。

『演劇の未来形』（谷川道子著、東京外国語大学出版会、2014 年）という本は、演劇に未来形などあるのか？の疑念や問いに、2500 年来あえて変容・変貌を重ねつつ生き続けていく演劇の可能性を問い返したいという思いから書いたものです。人間も演劇も出版も世界も地球も、負けてたまるかの気概で、未来形を考えていけばいいと思います。



『演劇の未来形』は、附属図書館で所蔵しています。

（請求記号：A/770/714583～741585）

講演中、語劇の参考資料として、谷川先生から以下の図書が紹介されました。

『劇場を世界に：外国語劇の歴史と挑戦』（谷川道子、柳原孝敦編著、新宿書房、2008 年）

附属図書館では大学発行版を所蔵しています。（請求記号：A/870/638917～638918）

平成 27 年度附属図書館特別展示会報告

近代インドの華麗な文化的世界 ー ナワルキショール・プレスの出版物を中心に ー

第 16 回を数える今回の展示では、附属図書館が所蔵する南アジア地域に関する貴重書の中から、「ナワルキショール・コレクション」及び 21 世紀 COE プログラム「史資料ハブ地域文化研究拠点」の活動の中で収集された文献資料を中心に紹介しました。なお、図書館天井耐震工事と重なったため、初めて図書館の外の会場を借りての開催となりました。

【会期】平成 27 年 12 月 7 日(月)～平成 28 年 1 月 29 日(金)

【場所】東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 1 階資料展示室

ナワルキショール・プレスは、ムンシー・ナワルキショールにより 1858 年にインドのラクナウに創始された出版社で、近代ウルドゥー、ヒンディー文学の発達、普及に大きな役割を果たしました。展示では、「ダースターン」と呼ばれるウルドゥー伝奇文学やヒンディー長編小説『ゴーダーン』の初版本、ウルドゥー詩歌集などの様々な文学書を紹介しました。

「史資料ハブ地域文化研究拠点」の収集資料からは、現在使われていない文字で書かれた聖書や 18 世紀末から 19 世紀初頭のベンガル社会のありさまを生き生きと描いた絵画集『インド誌』(左下)などの稀覯本を、さらに 2012 年(平成 24 年)に本学に新たに誕生したベンガル語専攻に関する資料として、非ヨーロッパ人として初めてノーベル文学賞を受賞した詩聖タゴールの作品やその日本語訳書を案内しました。

東京外国語大学附属図書館第16回特別展示

ナワルキショール・プレスは、ムンシー・ナワルキショールにより、19世紀半ばにラクナウに設立されたインド国内最大の出版社です。
今回の展示では、このナワルキショール・プレスの出版物を中心に、東京外国語大学附属図書館の所蔵の中から、国内外のインド文学の発展を促した資料を紹介します。

近代インドの華麗な文化的世界
ナワルキショール・プレスの出版物を中心に

平成27年12月7日(月)～平成28年1月29日(金)
開館時間: 平日 9時～17時
土曜日及び12月29日(火)～1月2日(土)は閉館
入場無料、事前申込不要

会場: アジア・アフリカ言語文化研究所1F 資料展示室
共催: 東京外国語大学協会・国際交流基金センター
協力: 東京外国語大学附属図書館・国際化推進センター
お問い合わせ: 東京外国語大学附属図書館総務課
Tel: 03-330-5123 / E-mail: library@tufs.ac.jp

【監修・解説: 萬宮健策 本学准教授】



Nautch A Hindoo Dance.

Les Hindouïs, t.2

(請求記号: HUB/N/610942/2)

par F. Baltazard Solvyns, Chez l'auteur, 1810

また、本学のウルドゥー語専攻から、11月に行われた外語祭(大学祭)で学部学生が上演したウルドゥー語劇「ウムラーオ・ジャーン・アダー」の映像と衣装をお借りし、上映・展示しました。

一般の方をはじめ、会期中に本学で開催された国際ベンガル学会の参加者など、多くの方にご来場・ご好評をいただき、大変充実した展示会となりました。

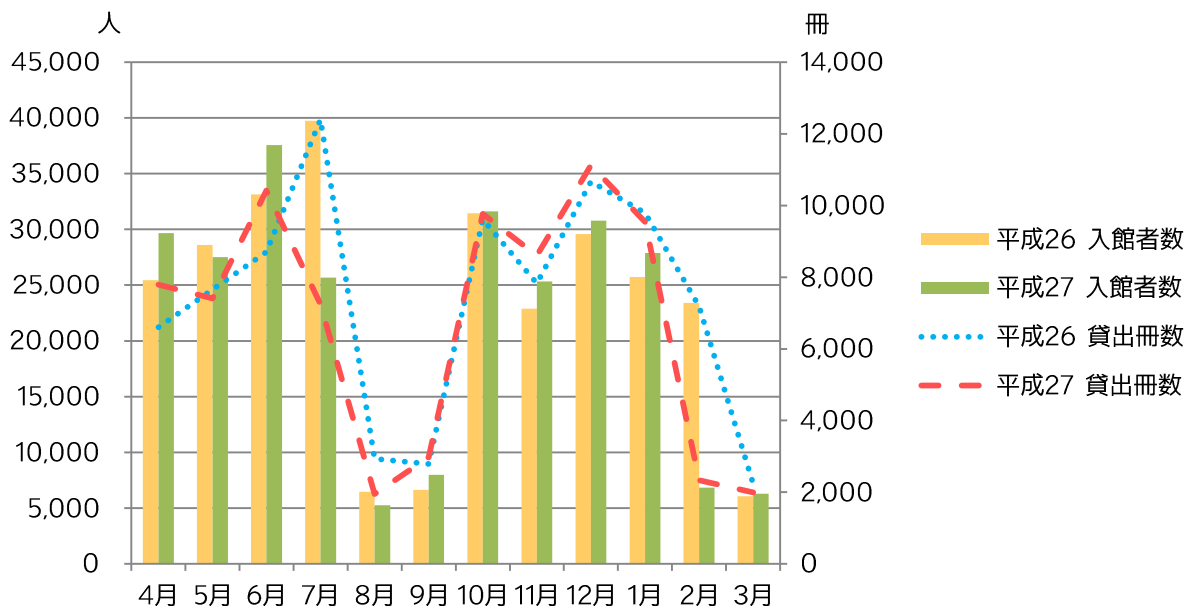
本稿に記載の図書及び展示の詳細は、展示会パンフレットでご確認いただけます。附属図書館 HP に以下の URL で公開しておりますのでご覧ください。

<http://www.tufs.ac.jp/library/guide/shokai/tenji16.pdf>

図書館統計

入館者数・貸出冊数 同月比較

【平成 26 年度（平成 26 年 4 月～平成 27 年 3 月）、平成 27 年度（平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月）】



入館者数・貸出冊数・開館日数・開館時間数

	平成 26 年度		平成 27 年度	
	入館者数	貸出冊数	入館者数	貸出冊数
4 月	25,450	6,605	29,653	7,787
5 月	28,605	7,653	27,510	7,404
6 月	33,137	8,705	37,563	10,417
7 月	39,736	12,399	25,672	7,248
8 月	6,480	2,936	5,262	1,954
9 月	6,645	2,789	7,993	2,977
10 月	31,449	9,610	31,606	9,765
11 月	22,893	7,824	25,335	8,607
12 月	29,566	10,662	30,792	11,122
1 月	25,736	9,787	27,869	9,538
2 月	23,418	7,182	6,841	2,333
3 月	6,072	2,228	6,293	1,992
合 計	279,187	88,380	262,389	81,144
開館日数	295		296	
開館時間	3,031		3,049	

図書館ホームページではより詳細な内容がご覧いただけます。

◀ 入館者数 ▶

http://www.tufs.ac.jp/library/gaiyo/toukei/toukei_visitors.pdf

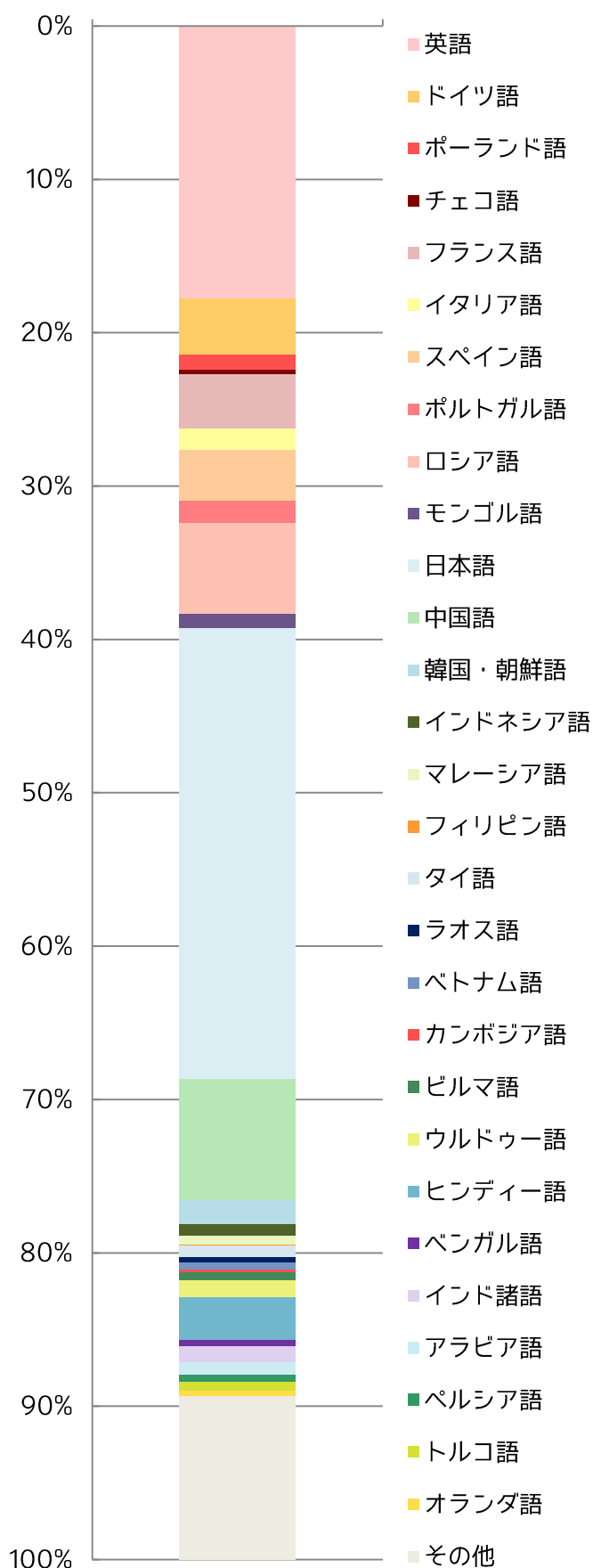
◀ 貸出冊数 ▶

http://www.tufs.ac.jp/library/gaiyo/toukei/toukei_loan.pdf

附属図書館・言語別所蔵冊数

【平成 28 年 4 月現在】アジア・アフリカ言語文化研究所蔵書は除く

言語名	冊数	割合
英語	127,181	17.82%
ドイツ語	25,734	3.61%
ポーランド語	7,198	1.01%
チェコ語	2,123	0.30%
フランス語	25,137	3.52%
イタリア語	10,150	1.42%
スペイン語	23,326	3.27%
ポルトガル語	10,298	1.44%
ロシア語	42,224	5.92%
モンゴル語	6,990	0.98%
日本語	209,444	29.35%
中国語	56,759	7.95%
韓国・朝鮮語	11,310	1.58%
インドネシア語	4,929	0.69%
マレーシア語	4,408	0.62%
フィリピン語	372	0.05%
タイ語	5,418	0.76%
ラオス語	2,438	0.34%
ベトナム語	3,205	0.45%
カンボジア語	1,374	0.19%
ビルマ語	3,638	0.51%
ウルドゥー語	8,019	1.12%
ヒンディー語	19,596	2.75%
ベンガル語	3,214	0.45%
インド諸語	7,570	1.06%
アラビア語	5,612	0.79%
ペルシア語	3,225	0.45%
トルコ語	4,083	0.57%
オランダ語	2,788	0.39%
その他	75,857	10.63%
合計	713,620	



📖 図書館活動日誌（平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月）

【活動】

- 4 月 1 日 英語多読用 e B o o k の提供開始（506 タイトル）
- 4 月 6 日 クォーター制（春夏秋冬の 4 学期制度）開始
- 4 月 7 日 図書館オリエンテーション（4 回 ～10 日）
- 4 月 13 日 学術リテラシー科目附属図書館担当分講義「附属図書館利用案内」
（全 3 回 4 月 14 日・4 月 16 日と計 3 日間）
- 4 月 13 日 リクエストガイダンス（全 29 回 ～2016 年 1 月）
- 5 月 7 日 世界教養科目「日本の出版文化」第 6 回「図書館と書物」担当
- 5 月 27 日 平成 27 年度第 1 回図書館委員会
- 6 月 8 日 学術リテラシー科目附属図書館担当分演習「情報検索演習」
（全 3 回 6 月 9 日・6 月 11 日と計 3 日間）
- 6 月 11 日 レポートの書き方（多言語コンシェルジュ企画）（全 2 回 ～15 日）
- 6 月 12 日 テーマの糸口をつかむ（多言語コンシェルジュ企画）（全 2 回 ～17 日）
- 6 月 15 日 情報検索ガイダンス（全 8 回 ～19 日）
- 6 月 27 日 土日拡大開館実施（開館時間を 13:00 から 9:00 に変更 6 月 28 日・7 月 4 日・7 月 5 日と計 4 日間）
- 7 月 1 日 平成 27 年度第 1 回選書委員会
- 7 月 12 日 オープンキャンパス図書館見学
- 9 月 7 日 夏学期集中講義期間の時間外開館実施（～30 日）
- 9 月 16 日 平成 27 年度第 2 回図書館委員会
- 9 月 30 日 図書館館報「Castalia」22 号発行（インターネット公開）
- 10 月 26 日 学部生向け卒論ガイダンス（多言語コンシェルジュ企画）（全 6 回 ～11 月 6 日）
- 11 月 4 日 平成 27 年度第 2 回選書委員会
- 11 月 21 日 オープンキャンパス図書館見学（11 月 19 日～23 日は外語祭キャンパスツアー図書館見学も実施）
- 12 月 2 日 平成 27 年度附属図書館公開講演会（谷川道子 東京外国語大学名誉教授）「演劇という文化」
- 12 月 7 日 平成 27 年度附属図書館特別展示
（「近代インドの華麗な文化的世界ーナワルキショール・プレス の出版物を中心に」 ～1 月 29 日）
- 12 月 17 日 選書ツアー 学部学生等 4 名参加（於 紀伊國屋書店新宿南店。淡江大学(台湾)及び上海外国語大学
（中国）の Global Japan Office に配置する日本語図書 の選定）
- 12 月 26 日 附属図書館耐震工事（工事区域：吹き抜け及び 4 階の天井）（～3 月 31 日）
- 1 月 9 日 土日拡大開館実施（開館時間を 13:00 から 9:00 に変更 1 月 10 日と計 2 日間）
- 1 月 13 日 平成 27 年度第 3 回選書委員会
- 1 月 20 日 英語レポートの書き方（多言語コンシェルジュ企画）（全 2 回 ～27 日）
- 1 月 21 日 レポートへの統計情報の使い方（多言語コンシェルジュ企画）（全 2 回 ～28 日）
- 2 月 10 日 平成 27 年度第 4 回選書委員会
- 2 月 17 日 チャビンゴ自治大学長（メキシコ）来訪
- 3 月 7 日 平成 27 年度第 3 回図書館委員会

【学外会議・研修等】

- 4 月 17 日 国立大学図書館協会東京地区協会総会 1 名参加（於 東京海洋大学）
- 6 月 18 日 第 60 回国立大学図書館協会総会 2 名参加（於 熊本）
- 6 月 25 日 東京西地区大学図書館協議会加盟館会議 2 名参加（於 電気通信大学）
- 9 月 9 日 東京西地区大学図書館協議会サマーセミナー 1 名参加（於 玉川大学）
- 10 月 1 日 TAC 図書館合同会議（館長会議、図書館部会） 2 名参加（於 国際基督教大学）
- 11 月 15 日～23 日 国立大学図書館協会海外派遣事業（ドイツの大学図書館の訪問調査） 1 名参加
- 11 月 26 日 TAC 図書館員交流会 2 名参加（於 東京経済大学）
- 12 月 4 日 東京西地区大学図書館協議会秋季セミナー 1 名参加（於 武蔵野美術大学）
- 3 月 9 日 TAC 図書館部会会議 2 名参加（於 国際基督教大学）

📖 編集後記

今回は図書館のトピックとして「学認」サービスと資料の配置変更を取り上げました。図書館の内と外の違いはありますが、資料利用に際しての空間的な利便性の向上を目指したものです。皆さんのお役に立てばと願っています。また、資料の配置変更ではアルバイトの学生さんたちにも頑張ってもらいました。本や雑誌を運んで並べるという体力仕事でしたが、みんな気持ちよく作業してくれました。とても感謝しています。本当にありがとう。

Castalia：東京外国語大学附属図書館報 第 23 号

2016 年 9 月 30 日発行

発行：東京外国語大学附属図書館 〒183-8534 東京都府中市朝日町 3-11-1

電話：042-330-5193 ホームページ：<http://www.tufs.ac.jp/library/index-j.html>